

共謀罪法案は廃案に！憲法改悪は許さない！ 日本共産党県委員会が長岡市で演説会開催



セージも届きました。やはり、昨年の市民と野党の共闘による2連勝は大きかったと思えました。

連帯の挨拶に森参院議員が立つと割れんばかりの拍手。日本共産党の弁士に負けなくらい大きかったです。参院農林水産委員会での奮闘ぶり、よく伝わってききました。社民党の長部県議も、「日本共産党は友党だ」と言って一緒に闘う決意をのべてくださいました。いつときも早く、衆院選の共闘を確立させたいものです。

衆院小選挙区候補者は新潟県内6つの区ですべて日本共産党は候補を擁立していますが、この日は2区の細井良雄予定候補、5区の西沢博予定候補（比例と重複）、6区の上野公悦候補が訴えました。柏崎刈羽原発から10数キロのところに住んでいる細井予定候補は原発再稼働反対と農業守る政策を訴え、西沢予定候補は県知事選で米山候補の秘書を務めた経験などから市民と野党の共闘の前進と日本共産党の前進を訴えました。わが6区の上野予定候補は上越市での市民と野党の共闘の経験に触れながら、衆院選でも前進をと力を決めました。

この日の日本共産党のメイン弁士は紙智子参院議員でした。農家出身で、現在、日本共産党の農漁

民局長です。加計学園問題、憲法改悪問題などをわかりやすく語るとともに、水田農業、種子法の問題にもふれ、「コメどころ新潟を守るためにも、農業を基幹産業として位置付ける農政への転換を」と訴えました。

北越急行電車にトイレを
直江津・頸城の会が総会

「在来線と地域のあり方を考える直江津・頸城の会」の総会が先月27日、直江津学びの交流館で開かれ、参加してきました。

総会は今回で9回目。昨年度も上越市や新潟県への要請行動、懇談などを重ねてきました。報告を聞いて注目したことのひとつは、政府の責任についての言及です。「全国の地域交通鉄道網を維持し、住民の足と地方再生の基盤を守るために、新たな支援策や公共交通を守る基金を創設することを求める」としたのは大事なことだと思えます。

総会の中でいくつかの質疑と要望が出ました。そのひとつは、北越急行の電車内のトイレ設置です。参加者から「県に要望が届いていないの



【シロバナニガナ】キク科の多年草。漢字で「白花苦菜」と書きます。花は白。黄色のものが普通で、白色はあまり目にしません。花言葉は「明るい笑顔の下の悲しみ」。何となく複雑です。5月末、吉川区内にて撮影。

ではないか」との質問に執行部は、「県との交渉では、トイレ設置の声は聞こえてこなかったとのことだったので、県からも調査してもらいたいと要望した」と答えていました。市と県、北越急行などと連携した取組で実現させたいものです。

「会員ではないけれど」と前置きしたうえで発言したのは、柿崎区から来たという女性。「おはよう信越」「らくらくトレイン信越」で指定席券を買わされているがガラガラが多い、無料にするよう働きかけてほしい、などのべていました。



【クネバラ】畑でキュウリなどつる性の野菜を栽培するための木。「シバ」と呼ぶところも多い。写真は長岡市大島にて撮影しました。

はしづめ法一の活動レポート

No.1809 2017.6.4
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見てある記」はこちら
橋爪法一 検索

春よ来い

第四五七回

青嵐吹くなかで

春がどんどん遠くなっています。今年の五月は夏のような暑い日が続いたかと思ふと、雨が降り、その後はまた暑い日になりました。雨をもらった山野や田畑は元気になり、草木の緑はいまが一番美しいときとなっています。

そうしたなか、先週の土曜日、朝から夕方まで動き回って、気持ち良い一日を送ることができました。

午前九時前から始まった地元の吉川小学校の運動会。幸い雨は落ちることなく、午前一〇時頃には陽が射すようになりました。私は、この運動会でいい体験をさせてもらいました。

私は今回、初めて、運動会で「ジャンケンマン」をやりました。一、二年生の「チャンスレース」で、「ジャンケン」をする係として手伝ったということです。

レースの途中、選手たちが私とジャンケンをするポイント（場所）がありました。選手が私に勝てば前にすすめます。私に負けると五メートル前の赤いコーンのところまで走ってきて再びジャンケンをしなければなりません。早く負けてやりたくない場面もあったのですが、そうは簡単にはいきません。小さな選手たちは必死でした。急いで走り、ジャンケンも真剣勝負です。子どもたちとこんな形で触れ合ったのは本当に久しぶりのことでした。いいもんですね。

午後からは高田へ行きました。本町五丁目の内山栄子さん（九五歳）のPATCHワーク、三人の娘さんたち、そのお連れ合い、子どもさんたちなどの油絵、書などの作品を集めた作品展を観るためです。

会場のほつとステーション五番館に着くと、栄子さんの次女で、既に亡くなっている美代子さんのお連れ合いの秀二さんに迎えていただきました。

秀二さんとは、花ロードのときや大島区の新緑祭などでほんの数回会っただけなのですが、ずっと前から知り合いです。うな、親しみを感じています。今回は作品の解説をしてもらいました。

内山家の人たちはどこから作品づくりのエネルギーが出てくるのでしょうか。PATCHワークであるうが、油絵であるうが、ものすごく精力的な感じがするのです。なかでも男女の抱擁とキスシーンを描いた美代子さんの作品は人間臭さがあふれていて、強く印象に残りました。

会場にはアジサイなどいくつかの花も作品として一緒に配置されていて、それがまたいい雰囲気をつくり出していました。作品展には三〇分ほどしかいませんでしたが、私は、とても濃密な時間を過ごした感じがしました。

この日は午後三時から、直江津の学びの交流館において、ある市民団体の総会がありました。

総会には会員でない柿崎区在住の女性の方も参加していて、鉄道に乗って移動する自らの体験に基づいて発言されていました。それがとても新鮮で、マンネリ化しやすい総会に刺激を与えました。私もその発言で議会質問のヒントをもらい、参加して良かったと思いました。

この日は夕方遅くなってからも動き、帰りは浦川原区から朔日峠を通って自宅へと向かいました。その時のことです。青嵐（あおあらし）が吹きまくり、夕日が横からそれらを照らし出したのは。

吉川区の福平や河沢、片田の山々は金色に輝きました。そのときの景色は、私の人生で初めて出合った極上の美しい風景でした。私だけが見たのではもったいないと写真に収めましたが、最高の気分でした。

市議会厚生常任委員会が新クリーンセンターを視察

市議会厚生常任委員会は5月29日、新クリーンセンターの視察をしました。私は総務委員ですが、この視察に同行させていただきました。

同センターは1日当たり170トンの

ごみを焼却する施設で、日立造船が3か年かけて建設してきました。総工費121億円。焼却熱を利用した発電（6200kw。約7000世帯の消費分）もします。くるみ家族園への温水供給（80度）も続けます。

新施設はこの日、火入れ式をしたばかり。今月12日から試運転をするとのこと。外構工事を含めた工事の竣工は6月末。10月1日から本格稼働することになっています。

この日は外観だけでなく、焼却の工場内も見学しました。ごみを搬入するプラットホームや焼却炉、灰処理物ピット、中



央制御室、ロードヒーティングの場所などを見学しました。まさに、巨大ごみ工場といった感じでしたね。ごみピット、灰処理ピットはとても深く、怖いくらいでした。

市ではこのクリーンセンターの稼働に伴い、燃えるごみ、ぷらゴミなどの分別を見直していく予定です。決まり次第、お知らせします。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	5月24日(水)	5月31日(水)
上越南消防署	0.043	0.047
上越北消防署	0.053	0.053
新井消防署	0.043	0.050
頸北消防署	0.047	0.043
頸南消防署	0.050	0.057
東頸消防署	0.060	0.057
高士分遣所	0.053	0.060
名立分遣所	0.050	0.050